

2本ともベストとライバルを寄せ付けない走りで快勝した中村凌選手。



中村凌ミラージュ、気迫の走りでシリーズ2位を死守!

全8戦で競われる今年の九州地区戦は、9月29日にグラベルモータースポーツクラブの主催で行われた一戦でラストを迎えた。会場となったスピードパーク恋の浦は、11月にJMRC西日本フェスティバルという大一番が控えているものの、とりあえず今年のシーズンを締め括るイベントとあって、各選手、「走り止め」の一戦で思い切りのいい走りを見せてくれた。

N1クラスはヒート1で寺崎雄貴選手が唯一人、2分の壁を破る1分57秒979をマーク。2番手の良本海選手を2秒以上も突き放して暫定トップに立つ。しかしヒート2に入ると各選手、1分50秒台に突入し、良本選手も1分56

秒189まで詰めて最終走者、寺崎選手の走り待。第3戦以来の2勝目を狙った寺崎選手だったが、良本選手に0.043秒届かず、2位止まり。良本選手が初優勝をもち取った。

「2本めは細かいミスはありましたが、全体的にはよく走れたと思います。昨日まで雨が降っていたせいか、路面がいつもより湿った感じがして、その分、グリップする所としない所の変化が少なかったので走りやすかったです。ヴィッツターボは今年買ったばかりなので、ようやく慣れてきた感じですが、全日本も走ったクルマなので、まだドライバーがクルマに追いついてない(笑)。もうちょっと精進したいですね」と良本選手は来季に向けた抱負を語った。

デミオ、ヴィッツ、スイフトが三つ巴を演じているS1クラスは、ヒート1で3台がミスコース、マシントラブルでノータイムと波乱の展開に。しかしヒート2は、そのミスコースを喫した堀田浩司選手が、2番手を4.3秒もぶっつぎるタイムで圧勝し、汚名を返上した。

「1本めは思い込みで走ってしまいました(笑)。2本めはシフトが1回入らなかったんですけど、気合入れた分だけ、タイムが出たんで良かったです。やっぱり今日は路面が全然、違いましたね。いつもはレイン用タイヤで行っても合わない所が何か所があったんですけど、今日は意外とどこでも行けるなあ、という感じがしましたから」と堀田選手。今季、最後の最後で

1. Cクラスはヒート1で不本意なタイムに沈んだ佐伯義輝選手が逆転で優勝を飾った。2. Dクラス橋本和信選手は1分44秒094でオーバーオールウィンを達成。3. Cクラス2位に甘んじた上原吉就選手。4. Dクラス江川博選手はタイムを上げたものの、2位にとどまった。





5. S1クラスは堀田浩司選手がヒート1のMCから逆転勝ちを収めた。6.今季3戦目の参戦ながら見事に優勝を飾ったN1クラス良本海選手。7. N1で2位入賞の寺崎雄貴選手。8. S1で2位の平安龍司選手。9. S2で

2位の南義則選手。10. S3で2位の井上博保選手。11. S3で3位入賞の今福和彦選手。12. N1で3位の佐藤豊選手。13. S2で3位の江河裕太選手。14. S1で3位の村谷武蔵選手。15. Cで3位の松永浩文選手。16. S1で4位の藤原秀利選手。17. S2で4位の川崎佳弘選手。18. N1で4位の安川典男選手。19. S3クラスは岸山信之選手が全日本ドラの真実を見せて優勝。20. N1クラス表彰の皆さん。21. S1表彰の皆さん。22. S2表彰の皆さん。23. S3表彰の皆さん。24. C表彰の皆さん。25. D表彰の皆さん。26. OPクラス優勝の岡本泰成選手。

もぎとった勝利に笑顔を見せた。
続くS2クラスは、開幕戦と第3戦を制している九州地区期待の若手、中村凌選手が、2本ともベストタイムで上がって快勝した。

「シリーズ2位がかかった一戦だったんで頑張りました。パワー的に劣るクルマなので踏まないと思えば勝てないですよ。今日は踏み勝ちだったと思います」と中村選手。昨年はインテグラを駆ったが、転倒させたため、以前乗っていたミラーージュをまたドライブしている。

「インテは乗り方が掴めなかったんですけど、ミラーージュに戻ってみると、このクルマは自分に合ってると感じました。来年もこのクルマで頑張ります」と意欲を見せた。

九州地区の改造車部門は全日本級のドライバ

ーがひしめき合っているが、Cクラスもそのひとつ。チャンプ確定済みの全日本ドラ岩下幸広選手は欠場したが、上原吉就選手と佐伯義輝選手によるシリーズ2位争いが白熱した。

ヒート1は上原選手が1分47秒262でベストを奪うも、ヒート2では、1本めはミスで満足なタイムを残せなかった佐伯選手が1分44秒444まで挽回してトップを奪う。再逆転を狙った上原選手だったが、0.369秒及ばず。第5戦以来の3勝目をあげた佐伯選手がシリーズ2位を確保した。

「いつも上原“先輩”に負けてるんで(笑)、2本目は頑張りました。今日は広場に下りてきてからの後半のセクションがポイントだったと思いますけど、せこく行かないとタイム出ない所をその通り、走ったのも良かったと思います。僕らのクラスは最近ではドライタイヤの方がタイム出るので、セッティングも変えたんですけど、フィーリングが好きなので、来年はドライタイヤでガンガン攻めたいですね」と佐伯選手。激戦区の来季を見据えていた。